

令和 7 年度

沖縄県立宮古病院 清掃業務委託
仕様書

令和 7 年 1 月

沖縄県立宮古病院

清掃業務仕様書

1 総則

受託者は、沖縄県立宮古病院が医療現場であるという特殊性を考慮し、常に衛生的でかつ良好な医療環境の維持に努めるとともに、「院内感染防止」を重視し清掃作業を行わなければならない。

また、作業に際しては、全ての病院利用者、従業員に安全で快適、安心できる環境を提供できるよう努めること。

なお、当仕様書は清掃の一応の基準を示すものであり、仕様書に記載のない事項については発注者、受託者の協議により決定するものとする。

2 作業範囲 沖縄県立宮古病院全域

3 契約期間 令和7年4月1日から令和8年3月31日

4 就業日及び時間

清掃日は、週休日及び休日を含む毎日とする。ただし、年末年始については別途協議する。清掃時間については、外来及び事務室を午前8時までに完了するものとし、それ以外については各清掃場所の特殊性を考慮し甲の指示に従うものとする。

5 配置人員

当該委託業務を遂行するため常駐させる職員数は以下のとおりとする。

平日：18名以上

土曜日及び祝祭日：5名以上

日曜日：2名以上

6 費用の負担区分及び使用資材

(1) 下記の支給品を除き、清掃に使用する薬剤（消毒洗浄剤、消毒剤、洗浄剤、ワックス等）、清掃用具、消耗品（塵芥用ビニール袋等）、受託者が使用するマスク（BFE95%以上カット）は、受託者が負担する。支給品は、紛失、汚染、無駄遣いを防ぐために、所定の場所に収納し、必要以上に予備を使用部署に置いてはならない。また、消耗品が不足しないように適時補充しなければならない。

支給品・・・医療廃棄物用ビニール袋（赤色・黄色・半透明のみ）、三角袋（L、LL、3L）、トイレットペーパー、ペーパータオル、手洗い用洗剤、手袋、エプロン

(2) 電気料、水道料は発注者が負担する。

- (3) 使用資材は、病院の各清掃部位の壁材・床材等を十分に検討し最適な清掃資材を使用すること。また、使用材料は総務課の検査を受け合格した物のみを使用するものとする。

7 作業員控え室及び清掃消毒用具保管場所の提供

発注者は、受託者に清掃用具保管場所及び更衣室や休憩室の場所を無償で提供する。また、これらに係る光熱水費は、発注者の負担とする。

8 責任・連絡体制の確立と基本事項

- (1) 受託者は専任の責任者1人を定め院内に常駐させ、責任者は作業員に対する指示・監督を行い、常に作業の完全な実施を図るものとする。
- (2) 受託者は、夜間・休日等いつでも連絡が取れるように、責任者の氏名、連絡先、連絡体制、作業員の氏名などを表にまとめ総務課に提出すること。また、責任者、作業員に変更が生じた場合は、その都度速やかに名簿の差し替えを提出すること。
- (3) 責任者は就業時間中いつでも発注者と迅速に連絡が取れるようにすること。
- (4) 作業区域内において、メンテナンスの必要性が生じた場合には、作業後であっても本院係員の指示に即時対応し作業を行うものとし、作業終了後は、速やかに依頼者に作業終了の報告をすること。
- (5) 責任者と作業員は「病院清掃」、「標準予防策」、「感染経路別予防策」などの知識を有し、実行できるものでなくてはならない。
- (6) 受託者は、医療法施行規則第9条の15を遵守し、「業務案内書」「標準作業書」を請負業務開始前に提出すること。
- (7) 受託者は、請負業務開始前に、「業務案内書」、「標準作業書」及び仕様書を十分に検討し、「作業計画書」を作成して、総務課の承認を受けなければならない。
- (8) 受託者が作成する「作業計画書」は、部署別ゾーニング毎に日単位、週単位、月単位及び年単位で記載し作成しなければならない。

9 発注者側の責任者及び指示

発注者における業務責任者は総務課長とする。また、各部署における責任者は各病棟の師長とし、その統括者として副看護部長を置く。

10 作業員の厳選

- (1) 受託者は、体力、技術、責任等において問題がなく、本仕様書で求める業務を十分遂行できる作業員を厳選し配置しなくてはならない。
- (2) 受託者は、作業員に対し病院清掃業務、標準予防策、院内感染防止等に関する教育とトレーニングを実施し、実践させること。
- (3) 受託者は、責任者及び作業員に接遇を含めたマナー教育を実施し、作業現場において実践させること。
- (4) 受託者は、作業員に対し清掃業務に使用する全ての道具や薬剤を適正に使用させ、

その効果的な使用方法等について教育し、実践させること。

11 作業規則

- (1) メンテナンス作業は誠心誠意をもって病院清掃業務の知識を実践し、良好な環境の維持に努めるものとする。
- (2) 作業員は、作業中に医療行為や患者に支障を来すことがないように、十分注意しなければならない。
- (3) 作業員は、会社名、氏名及び顔写真入りの統一された名札を上着に着用すること。
- (4) 受託者は、各作業員に清潔かつ統一されたユニフォーム（上着、ズボン及び帽子など）を提供すること。また、各作業員は、常に服装を清潔に保ち、身だしなみを整え、患者や職員に不快感を与えてはならない。
- (5) 作業員が履く靴は、滑りにくいゴム底の靴とする。
- (6) ME機器等は、現場の職員に確認のうえ、移動やコードの取扱いについては、細心の注意を払うこと。
- (7) 作業員は、メンテナンス作業の際には、感染症対応であるか否かを適宜各病棟師長に確認したうえで行うこと。
- (8) 光熱水費やその他の消耗品等は、必要最小限の使用を心掛けること。
- (9) 清潔な物品（リネン・食材・薬剤等）と廃棄物は運搬する際同じルートを通らないこと。
- (10) 清掃と廃棄物運搬は担当者を分けること。
- (11) その他、業務上の不明な点等については、総務課職員の指示に従うこと。
- (12) 業務の引継は確実にいき、清掃作業のやり残しが無いように努めること。

12 基本的な清掃方法

- (1) 清掃は汚染度の低い場所から汚染度の高い場所へ、高さの高い場所から低い場所へ行うことを基本とする。
- (2) 清掃の基本は、機械的にこすり落とすことであるが、各種部材を破損、劣化、変色等させない薬剤と機材を使用しなければならない。また、埃を飛散させる方法は極力さなければならない。
- (3) 作業員は、清掃業務が患者の療養、診療行為等の妨げにならないよう十分配慮すること。
- (4) 作業員は清掃作業に際して、病院職員の業務を妨げることがあってはならない。業務に影響を与えると考えられる場合は、各病棟師長等を確認のうえ、その指示に従い作業を行うこと。
- (5) 清掃作業後は、不快な臭いや埃、カビ、ゴミ等が残っていないか十分確認すること。
- (6) 血液体液・汚物等の汚染物質は、汚染を拡散させないように十分注意すること。
- (7) 清掃作業中に、緊急に別の場所の清掃作業を各病棟師長等から依頼された場合は、依頼された場所を優先して清掃作業を行うこと。
- (8) ハイダスティングは、ゾーニング毎に決められた回数行うこと。また、汚染が確認

できる場合は、その都度ハイダスティング又は消毒洗浄剤で清拭をすること。

- (9) 機械による作業やウェット作業時には、コーションサイン等を表示させて事故防止に努めること。

13 作業実施報告

清掃終了後は、作業日報（報告書）を作成し、月毎に取りまとめのうえ総務課に提出すること。

14 その他の一般事項

- (1) 業務上において建物・工作物、施設備品等を毀損した場合は、直ちに総務課に報告し、弁済の責任を負わなければならない。
- (2) 受託者は、請負期間中に知り得た病院、患者等の秘密事項や個人情報、いかなる場合でもこれを第三者に漏洩又は開示してはならない。また他の目的に利用してはならない。
- (3) 本仕様書に記載のない事項であっても、業務の性質上自然付帯の作業と見なされるものについては、発注者・受託者間双方協議のうえ決定するものとする。
- (4) 受託者は、施設内の鍵の取扱いは慎重に行い、業務遂行後は速やかに返還すること。
- (5) 清掃作業中に、患者・面会人、職員等を負傷させた場合やトラブルが発生した場合は、直ちに責任者に連絡すること。また、責任者は、直ちに所管の病棟師長と総務課に報告し、対応を協議しなければならない。
- (6) 病院敷地内において不審人物等を見かけた場合には、直ちに各部署の責任者に報告すること。

15 清掃の種類

- (1) 日常清掃とは、毎日及び週単位で行う清掃業務をいう。日常清掃には、発注者からの依頼による臨時清掃、病室及び病棟における液体石けん及びペーパータオルの補充、回収した一般ゴミの処理、シャワー室のマット交換、仮眠室（2階、3階）のベッドメイクも含む。
- (2) 定期清掃とは、年数回定期的に行う、ワックスを用いた床面の光沢復元作業や、共用部の洗浄、病棟及び共用部の窓ガラス清掃、敷地内の草刈・剪定、側溝の清掃等のことをいう。
- (3) 特別清掃とは、天井の照明清掃や高所作業を汚染の度合いに関わらず、年1回程度行う作業のことをいう。

16 清掃内容の確認

- (1) 作業員は、担当部署の清掃終了後(毎日)に、作業報告書に署名しなければならない。
- (2) 清掃作業において不手際が見付かった場合には、発注者は受託者に対し手直しを命ずることができる。
- (3) 発注者は、定期的（月1回）に複数の部署の清掃状況を確認し、受託者に報告する。

その際、不手際があれば直ちに改善するよう努めなければならない。

- (4) 発注者は、受託者が不履行、過失等を繰り返し、清掃業務能力が本仕様書の水準に満たないと判断した場合は、契約期間内に契約を解除することができる。

17 使用する薬剤、機材及び消耗品について

- (1) 受託者は清掃に使用する^{*1}disinfectant cleaner（以下「消毒洗浄剤」という。）、消毒剤、洗浄剤、ワックス、清掃用具（モップ、ダスター、ダストクロス、洗浄バケツ等）等一式を清掃開始前に提示し、その機能及び安全性を発注者に説明しなければならない。
- (2) 使用する消毒洗浄剤、消毒剤、洗浄剤及び機材を選定する場合には、使用部署の業務の性格や部材の性状を十分に考慮し、その効果、効率、安全性及び経済性を十分に考慮しなければならない。
- (3) モップの洗浄は、薬液絞り器のついた薬液バケツを使用することとし、決して手で絞ったり、洗ったりしてはならない。
- (4) 使用後のモップやダストクロスは、専用の洗濯機で洗濯し、完全に乾燥させること（消毒洗浄剤に漬け置きしてはならない）。その際、モップやダストクロスから感染性微生物が伝播しないような処理をしなければならない。
- (5) モップは、使用部署の清潔度（^{*2}ゾーニング）、感染性微生物の存在等を考慮し、色分けして使用しなければならない。少なくとも、廊下などの共用部、一般病室、感染症患者を収容した部署、トイレと浴室などは分別する。
- (6) ダストクロスは、テーブル、トイレ、シンク、その他（鏡、照明など）を使い分ける。
- (7) 清掃に用いる薬剤、機材等は所定の場所に収納し、作業員以外が接触することのないようにしなければならない。
- (8) 消耗品（トイレトペーパー等）の紛失、汚染、過剰消費を防ぐため、必要以上の予備を使用部署に置いてはならない。反面、消耗品が不足しないように、適時点検し、補充しなければならない。

18 清掃作業における教育と健康管理

- (1) 教育の頻度
- ア 新職員を採用した際は、必ず就業前に教育の機会を設ける。
- イ 既存の作業員に対しても、年に1回以上教育の機会を提供すること。また、新しい薬剤や清掃用具の導入時等においては、速やかに作業員への周知徹底を図ること。
- ウ 受託者は、教育施行日、教育内容、参加者等を記載した教育実施記録を病院に提出すること。
- エ 受託者は、本仕様書と作業計画書に沿った清掃作業手順の教育を徹底し、全ての作業員が履行開始日から問題なく作業に従事できるようにすること。
- (2) 受託者は、少なくとも以下の点を作業員に教育しなければならない。
- ア 県立宮古病院の清掃仕様書及び受託者の作業計画書

- イ ゾーニングとその対応
 - ウ 感染性微生物の知識
 - エ 清掃・消毒業務の作業全般
 - オ 使用薬剤と機材について
 - カ 病院でのマナー
 - キ 安全知識と衛生知識
 - ク 医療廃棄物（感染性廃棄物）の取扱い
 - ケ 標準予防策（スタンダードプレコーション）＋経路別感染対策
 - コ 血液や体液など感染性微生物の存在を疑わせる現場状況における清掃方法
 - サ その他注意事項
- (3) 清掃職員の健康管理
- ア 標準予防策（スタンダードプレコーション）を実践させること。
 - イ 個々の作業員が、自らを感染性微生物から身を守るために必要なガウンテクニック（手袋、ガウン、マスク、ゴーグル等の着用）を習得すること。また、これらの資材は発注者が提供するものとする。
 - ウ 作業員は、就業前にB型肝炎抗体検査を実施し、陰性の場合はワクチン接種を行うこと。また、実施結果についても報告すること。
 - エ 作業員は、清掃作業中に血液汚染や損傷を負った場合は、即座に責任者に報告し、適切な処置を受けなければならない。
 - オ 受託者は、作業員の健康管理に留意し、定期的に健康診断を受けさせること。

19 主な清掃方法

以下に、主な清掃方法と部署別の清掃方法を挙げる。これらは、病院施設の代表的な清掃について述べたものである。受託者はこれらを参考にして、施設内区域（ゾーニング）を十分に考慮した上で、「作業計画書」を作成し、遅滞なくかつ誠意をもって清掃業務にあたらなければならない。

(1) ダスティング

- ア ダスティングは科学的に処理されたダストクロスとダストモップを使用する。埃を発生させないために、クロスとモップは施設内で決して振ってはならない。
- イ 肩の高さ以上のダスティング（ハイダスティング）をする際は、その目的で作成された特別な機材を用いなければならない。ハイダスティングには、額縁、棚の上面やドアの上辺を含むものとする。
- ウ 日常清掃におけるハイダスティングは、目に見えて汚染がある時と特に決められた場合に行うものとする。その際は、上述の特別な機材を使用し、患者への埃の飛散を防ぐこと。

(2) 手すり及びドアノブは毎日の清掃に加え、汚染がある時は適時行うこと。ドアは、汚染のあるときに適宜清掃するものとする。

(3) 病室窓ガラス及び共用部の窓ガラスは、年に4回又は汚染がある時に清掃すること。

(4) 各病棟、病室内の清掃

- ア 1日1回、消毒洗浄剤を用いて床清掃すること。
 - イ 病棟、病室内のゴミは1日1回以上収集し、状況に合わせて回数を増やすこと。
 - ウ シンク等の清掃は基本的に共用部は1日1回以上、消毒洗浄剤を用いて清掃すること。また、各部署内のシンク等は、各部署の意向を責任者又は作業員が確認し、それに応じて対応すること。
 - エ トイレは、1日1回以上（汚染のあるときはその都度）消毒洗浄剤を用いて清掃すること。また、床排水溝の排水トラップに常時水がたまった状態になるよう、1日1回以上は水を流し入れること。
 - オ 浴室は1日1回以上消毒洗浄剤を用いて清掃し、床の水たまりを除去・乾燥させること（転倒防止・カビ防止）。また、排水口等に髪の毛等のゴミを残してはならない。
 - カ 患者が退院した場合は、病棟スタッフの指示に従い、即座に病室の床等を清掃すること。
- (5) 待合室やデイルームの設置物（テーブル、椅子、テレビ、備え付けの家具の表面、自動販売機、公衆電話等）は、ダストクロスを用いて上面・側面とも毎日消毒洗浄剤で清拭すること。
- (6) 手洗いシンクは、少なくとも1日1回清掃すること。ただし、研磨素材を含むブラシ類（スコッチブラシ等）は、使用してはならない。
- (7) 床及び階段は消毒洗浄剤で1日1回清掃する。
- ア バケツに入れた消毒洗浄剤は、頻回に（個室3～4部屋、大部屋なら2～3部屋）交換しなければならない。特に、血液・体液や明らかな汚物を処理したモップを洗浄した際は、必ず交換すること。
 - イ 一つのモップでの清拭範囲は、個室3～4部屋までとする。また、モップは消毒洗浄剤の交換と同じ頻度で交換すること（オフロケーション方式をとること）。
 - ウ 室内の床清掃においては、ジザイほうきを使用してはならない。大型のゴミを集める際には、床用の科学モップを用いること。
 - エ 使用後のバケツは、消毒洗浄剤を廃棄して乾燥させること。
 - オ モップは、ゾーニング及び汚染に応じて色分けして用いること。
- (8) 感染性疾患をもった患者の室内清掃
- ア 各病棟師長は、感染性疾患を持つ患者の室内清掃を依頼する場合は、作業員に感染性疾患の内容を告げ、適切な防御法のアドバイスをしなければならない。また、必要に応じて清掃員に防御用品を提供すること。
 - イ 確実に感染経路別予防策を実施しなければならない（予防策を実施しないままでの作業は、禁止する。）。)
 - ウ 同室の清掃に使用したモップ、バケツ、消毒洗浄剤等を、他の部屋・部署に連用してはならない。また、使用した清掃用具は適切に処理されなければならない。
- (9) 放射線室
- ア 床は1日1回消毒洗浄剤で清掃すること。
 - イ 壁、天井及び換気口は、目に見えた汚染が発生した場合に適時清掃すること。
 - ウ その他、職員の指示に従い清掃を行うこと。

エ 清掃時には、職員の指導の下、機材等を毀損させないように十分注意すること。

(10) アンギオ室

ア 通常のアンギオ室の清掃

(ア) 通常は病室の日常清掃と同様の清掃を基本とし、ハイダスティングとME機器の滑車は週に1回以上清掃を行う。

(イ) 床の清掃は室内物品を移動させずにできる範囲で行う。

(ウ) 無影灯のライトとアームのダスティングを日に1回以上行う。

イ 心カテやP T C A、ペースメーカー埋込術等のある場合の清掃

(ア) 就業前清掃について

i 手術台、机、イスは、消毒洗浄剤で清掃する。

ii 床は消毒洗浄剤で清掃する。モップと消毒洗浄剤は清潔な物品を使用する。特別な汚染がなければ、手術台を中心に半径1～1.5メートルの範囲の床清掃でよい。ただし、より広い範囲が汚染されていれば、清掃範囲を拡大する。血液・体液汚染があるときには、これに有効な薬剤を用いる。

(イ) 終了時清掃について

i 手術台、机、イスを消毒洗浄剤で清掃する。

ii 移動可能な機材を動かしながら、床全面を消毒洗浄剤で清掃する。

iii 壁、天井および吸換気口は、毎日ダスティングする。

iv 無影灯のライトとアームのハイダスティングを行う。

v 電源コード、その他ライン類を消毒洗浄剤で拭き上げた後、使用していないものは巻き上げる。

ウ その他の清掃について

(ア) 手洗い場は一日2回清掃する。

(イ) 手洗い場の床は、濡れてすべりやすいので、一日2回清掃する。

(ウ) 手術室内廊下、機材庫、コントロールルームの床は一日1回、消毒洗浄剤で清掃する。同部署のハイダスティングは週に1回行う。

エ 週末清掃について

(ア) アンギオ室内のハイダスティングを週に1回定期的に行う。

(イ) 各機材、テーブル、ワゴン、ストレッチャーなどの滑車は、週に1回定期的に清掃する。

(11) C T室、MR I 室

上記(10)に準ずる。

(12) 検査室

ア 床は1日1回消毒洗浄剤で清掃すること。

イ 壁、天井及び換気口は、目に見えた汚染が発生した場合に適時清掃すること。

ウ その他、職員の指示に従い清掃を行うこと。

エ 清掃にあたっては職員の指導の下、機材等を毀損させないように十分注意すること。

(13) 薬局

ア 調剤室

(ア) 床は1日1回、消毒洗浄剤で清掃すること。

(イ) 壁、天井及び換気口は、目に見えた汚染が発生した場合に適時清掃すること。

イ 無菌調剤室

無菌調剤室は、特別な清掃を必要とするので、薬局長の指示があるときにのみ清掃作業をするものとする。

(ア) 室内物品を移動させながら、全ての床を消毒洗浄剤で清掃すること。

(イ) 天井及び吸換気口は、ハイダスティングすること。また、目に見えた汚染が発生した場合は適時清掃し、その他の部位は、目に見えた汚染が発生した場合にのみ適時清掃するものとする。

(ウ) 各機材、テーブル、ワゴン等の滑車も清掃すること。

(エ) 清掃用具は、無菌調剤室内に置いてはならない。

(14) 外来

ア 床は1日1回、消毒洗浄剤で清掃すること。外来患者の少ない時間帯が望ましい。

イ 壁、天井及び換気口は、目に見えた汚染が発生した場合に適時清掃すること。

ウ 椅子、机、カウンター等の水平面は、週一回消毒洗浄剤で清掃すること。

エ トイレは、1日3回以上（汚染のあるときはその都度）消毒洗浄剤で清掃すること。

また、床排水溝の排水トラップに常時水がたまった状態になるよう、1日1回以上は水を流し入れること。

オ ゴミ箱等の内容物はビニール袋に詰め塵芥集積所に運搬集積し、容器は消毒した後、元の位置に返すこと。なお、塵芥の収集時間は次のとおりとする。

1回目・・・8:00頃 2回目・・・11:00頃 3回目・・・16:00頃

(15) 事務室、医局、当直室、看護師詰所、会議室等

ア 床は1日1回、一般ビル清掃に準じて清掃すること。

イ 壁、天井及び換気口、目に見えた汚染が発生した場合に適時清掃すること。

ウ ゴミは毎日処理すること。

エ 棚や家具の上面など、おおよそ埃の溜まりそうな場所は、最低でも月1回以上はダスティングすること。

オ 2階及び3階当直室のシーツ交換を、毎日行うこと。

(16) 医療廃棄物は各部署から少なくとも1日1回以上回収、処理すること。また、廃棄物の多い部署及び大量に発生した部署からは、必要に応じて回収回数を増やすこと。

ア 回収に関しては、中身がこぼれ落ちたりしないよう十分注意して、病院内の廃棄物集積場まで運ぶこと。

イ 回収する際は、廃棄物が剥き出しにならないようコンテナ等を用い、運搬に関してはカバー等で覆うこと。決して回収コンテナからあふれるような状態で搬送してはいけない。

ウ 搬送に関しては、患者、面会人、配膳車等との交差を極力さけること。

エ 回収された廃棄物は、当院規定の方法で処理するものとする。

オ 廃棄物集積場は少なくとも週1回程度は清掃すること。悪臭を防ぎ、害虫やネズミ等の発生を防止しなければならない。なお、清掃に際しては感染を防ぐための標準予

防策を十分に行うこと。

(17) 玄関（正面玄関、救急玄関）

一般ビル清掃に準じ、1日1回清掃すること。

(18) エレベーター

ア 壁面の清掃を1日に1回以上行う。

イ 手すり、スイッチ類の清掃を日に2回以上行う。

(19) 霊安室

ア 床は1日1回、消毒洗浄剤で清掃すること。

イ 焼香台及び椅子を1日1回清掃し、線香の灰が残らないようにすること。

ウ 祭壇のダスティングは、週1回行うこと。

エ 壁、天井及び換気口は、目に見えた汚染が発生した場合に適時清掃すること。

(20) 病院敷地、駐車場

一般ビル清掃に準じ、敷地内の草刈、樹木の剪定及び側溝の清掃等を年6回以上行うこと。

(21) 屋上

一般ビル清掃に準じ、3ヶ月に1回及び台風来襲時毎に行うこと。

(22) 中央滅菌室

ア 清掃は物品保管庫、組立室、リネン保管庫、洗浄室の順に行う。各区域の清掃に際しては、指定の衣服を着用のうえ、病室の日常清掃と同様の清掃を行う。

イ 床の清掃は室内物品を移動させながら行う。

ウ 手洗い場の清掃は、消毒洗浄剤を用いて、日に1回以上行う。

エ 各機材、テーブル、ワゴンなどの滑車の清掃は、除菌洗浄剤を用いて、週に1回以上行う。

(23) 手術室

※手術室清掃は、専門的な知識と技術を要するため、特別に教育を受けた清掃員を配置しなければならない。

ア 手術間清掃について

(ア) 手術台、无影灯、足台は、手術ごとに消毒洗浄剤で清掃する。

(イ) 床は手術後ごとに消毒洗浄剤でスポット清掃する。モップと消毒洗浄剤は、手術ごとに交換し、清潔な物品を使用する。特別な汚染がなければ、手術台を中心に半径1～1.5メートルの範囲の床清掃でよい（スポット清掃）。ただし、より広い範囲が汚染されていれば、清掃範囲を拡大する。血液・体液汚染があるときには、これに有効な薬剤を用いる。

(ウ) 壁、天井および吸換気口は、目に見える汚染がなければ手術ごとに清掃する必要はない。

イ 終了時清掃について

(ア) 手術台、无影灯、足台を消毒洗浄剤で清掃する。

(イ) 移動可能な機材を動かしながら、床全面を消毒洗浄剤で清掃する。

(ウ) 壁、天井および吸換気口は、目に見える汚染がある場合に適時清掃する。

(エ) 無影灯のライトとアームのハイダスティングを行う。

(オ) 電源コード、その他ライン類を消毒洗浄剤で拭き上げた後、使用していないものは巻き上げる。

(カ) ごみの排出は手術ごとに行う。ごみ及びリネンの保管庫がないため、ごみ運搬担当者は手術室清掃担当者からごみを受け取る。また、排出されたごみ袋、段ボール箱には排出時間、排出ルームの記入を行うこと。

(24) 定期清掃（ワックス等）

定期清掃の清掃箇所、内容及び回数については、別表のとおりとする。手術室1～4については、ノンワックス床材を使用しているため、その他の部分のワックスを行うこと。なお、同表に定められていない箇所をワックス清掃する必要がある場合には、事前に各セクション長と日時、回数等を調整のうえ行うこと。

(25) 発熱外来（旧宮古島市休日夜間救急診療所）

ア 床、椅子、机、カウンター等の水平面は、週に1回、消毒洗浄剤で清掃すること。

イ 壁、天井及び換気口は、目に見えた汚染が発生した場合に適時清掃すること。

ウ トイレは、週3回（汚染のあるときはその都度）消毒洗浄剤で清掃すること。

エ ゴミ箱の内容物はビニール袋に詰め塵芥集積所に運搬集積し、容器は消毒した後、元の位置に返すこと。

(26) 業務改善命令及びその他の事項

ア 清掃業務において、不手際が見つければ、発注者は受託者に手直しを命ずることができる。

イ 発注者は、定期的に複数の部署の清掃チェックラウンドを行い、その結果を受託者に報告する。受託者は清掃に不手際があれば、直ちに改善するとともに、1月以内に具体的改善策を文章で提示しなければならない。

ウ 発注者は、受託者が業務の不履行、業務上の過失を繰り返した場合であって、受託者が本仕様書に定める業務を履行できるだけの能力がないと判断したときは、契約期間内であったも契約を解除することができる。

エ その他清掃を要する箇所については、発注者及び受託者の双方協議の上、取り決める。

※1：消毒洗浄剤とは、連邦環境保護局（The Environmental Protection Agency）の許可した薬剤と同等のものとする。ノンクリティカルな部署には第四級アンモニウム化合物と同等の効果を有する薬剤。血液に汚染された部位は、次亜鉛素酸ナトリウムと同等の効果を有する薬剤とする。当院では、フェノール類は使用しないこととする。ただし、いずれの薬剤も人体に可能な限り安全で、病院の部材を損傷しないものとする。

※ 2 : 清掃管理の区分 (ゾーニング)

清掃度 クラス	名称	該当室
I	高度清潔区域	層流式無菌室、層流式無菌手術室
II	清潔区域 A	手術室、手術部廊下など、中央材料室、無菌調剤室
III	清潔区域 B	N I C U、I C U、手術部一般区域、アンギオ室、分娩室、透析室、新生児室
IV	準清潔区域	一般病室、診察室、救急室、処置室、調剤室、検査部一般区域、リハビリ室、放射線部一般区域、待合室、厨房
V	一般区域	事務室、会議室、医局、倉庫等
VI	汚染拡散防止区域	細菌検査室、R I 検査室、感染症病室、中央材料室汚染処理区域、剖検室等
VII	汚染区域	便所、廃棄物集積場

別表

ワックス清掃が必要な箇所はビニル床シートの床とする。下記の表は目安であり、下記に記載されている箇所でもタイルカーペットの床等はワックス塗布を必要としない。

清掃箇所	清掃内容	回数 (回/年)
1 階	床面洗浄ワックス塗布等	4
2 階	床面洗浄ワックス塗布等	4
3 階	床面洗浄ワックス塗布等	4
4 階	床面洗浄ワックス塗布等	4
5 階	床面洗浄ワックス塗布等	4
6 階	床面洗浄ワックス塗布等	4